

2023年6月25日、第34回理学療法学術大会で症例発表を行いました。今回の発表は、令和4年度神戸西支部新人発表会で推薦演題に選ばれた2年目理学療法士の6名が発表に挑みました。発表の形式はポスター発表であり、臨床研究部としても初めての挑戦でした。

ポスターの作成では、臨床研究部の先輩理学療法士と試行錯誤しながら作成し、院内で繰り返しの発表練習を行いました。

当日、貼りだされた6枚のポスターは圧巻の光景でした。今回で2回目の学会発表となる6名の発表者たちは、前回の発表よりも落ち着いた様子で、質疑応答もしっかり対応できていました。

今後もリハビリテーション科は、後身の育成に励み、患者様に提供するリハビリテーションの質を向上するよう取り組んでまいります。

(文責 浪越翔太)

【2年目理学療法士のコメント】

学会発表を通して、患者様の機能障害を客観的に評価し、問題点を明確にしたうえで理学療法を行うことの重要性を再確認することができました。今回の経験を活かし、患者様に最適な理学療法を提供できるように、より一層励んで参ります。

(理学療法士 岩谷知奈実)

学会発表を通して、1人の患者様に理学療法を行う際、解釈をもった上で治療する重要性を学ぶことができました。今回の経験を今後の臨床に活かし、患者様を治せるセラピストになるよう日々精進して参ります。

(理学療法士 猪俣史也)

今回の発表を通して、患者様に向き合う大切さを学ぶことができました。今後は発表のみにとどまらず、自己研鑽に励み日々の臨床に活かしていきたいです。

(理学療法士 里龍星)

今回の学会発表では、1人の症例について熟考する中で生活背景や疾患、既往歴を理解して、その人にあった理学療法を選択する重要性を学びました。今後も担当させていただくすべての患者様に対して最適な理学療法を選択し、治療に励んでいきたいと思っております。

(理学療法士 中野沙耶)

今回の症例研究では、セラピストとして貴重な経験をさせていただきました。ご協力いただいた患者様や先生方に感謝し、より一層努力して参ります。

(理学療法士 中村晟充)

1年間を通して、理学療法に対する知識が深まりました。今回の経験を活かして治せるセラピストになり、患者様により良い理学療法を提供できるように頑張ります。

(理学療法士 秋吉蓮斗)

【発表を終えた理学療法士の集合写真】

